

12.10.06～08 秋の涸沢山行報告書

M2 荒川 晶

①コースタイム

10月6日

京成上野駅 00:05～06:20 長野道豊科バス停 06:40～(タクシー)～07:20 三俣登山口

三俣登山口 07:30～常念方面への分岐 07:50～力水 08:15～まめうちだいら 09:45～13:00 蝶ヶ岳ヒュッテ
(幕営)

テント設営後、蝶ヶ岳ヒュッテ 14:50～15:30 蝶ヶ槍 15:50～16:25 蝶ヶ岳ヒュッテ

10月7日

蝶ヶ岳ヒュッテ 06:35～07:00 横尾方面分岐 07:05～檜見台 09:05～09:30 横尾 10:00～13:00 涸沢

※横尾で M0 後藤は下山、12:00 頃上高地に到着

※6 日夜出発組の行程は以下の通り

新宿駅 23:54～04:32 松本 04:45～05:08 新島々 05:20～06:25 上高地

上高地 06:30～09:00 横尾

10月8日

涸沢 07:00～08:40 屏風のコル 08:50～09:20 屏風の耳 09:40～10:10 屏風のコル 10:20～12:20 中畠新道
分岐 12:30～13:40 徳沢 14:00～16:00 上高地

②参加メンバー

6 日入山、8 日下山・・・M4 藤川・M2 荒川・M2 濱崎、

6 日入山、7 日下山・・・M0 後藤

7 日入山、8 日下山・・・M3 岡本・M2 佐藤・M0 伊賀上

③総評

M4 藤川さんの追い出し山行、という形で企画した今回の山行ですが、行き先が通いなれた涸沢、ということもあって多くのメンバーが参加してくれ、久々に賑やかな山行となった。ただ、テント泊としたため、装備や食事の支度などに思いのほか時間が掛かってしまったり、また行程中のペースの作り方など、改善点も多く見られた。次回以降の山行の糧としたいところである。

④1 日目

10 月 5 日の 23:30 に京成上野駅に集合し、日付を跨いで 00:05、繁華街を横目にアルピコ交通バスに乗車。3 列シートでもあり比較的快適に過ごせた(のは私だけだったのでしょうか?)。松本駅に 06:00 過ぎに到着、その後下車予定の長野道豊科 IC バス停で下車する。

15 分ほど待って予約していたタクシーに乗車。三股登山口を目指す。アプローチの道路はきちんと舗装されていて走りやすそうであった。涸沢の紅葉の話やクマの話をしたりしながら 40 分ほどで登山口へ到着。駐車場は連休の初日ともあり、路駐を含めてかなり多くの車で賑わっている。(次ページ)

身支度をしたりして 07:30 に蝶ヶ岳に向けて出発。始めは未舗装の林道のような道を歩き、15 分ほどで常念方面の登山道との分岐へ。

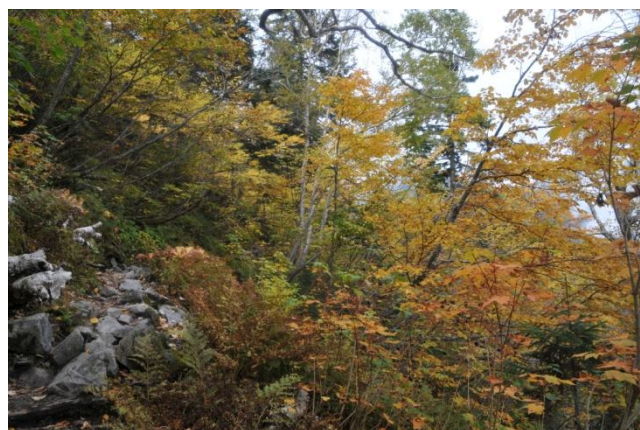
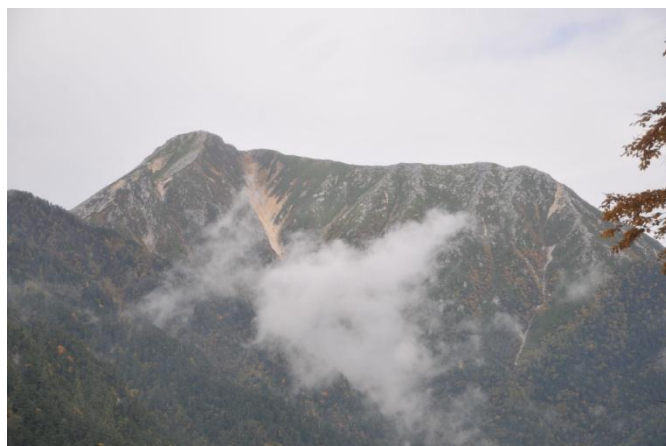
木々の間からは蝶ヶ岳の稜線が見え、紅葉が進んでいるのを確認できた。

小一時間歩いて蝶ヶ岳方面への水場「力水」を通過し(下写真)、さらに 1 時間半ほどでまめうちだいらに到着。(右下写真)



行程的には半分程度を歩いたことになるのだが、勾配が急になったことや、また荷物が重たかったこともあって、少しペースが落ちて、さらに 3 時間ほど、休憩を挟みつつして蝶ヶ岳のヒュッテに到着。

途中では常念岳の山容(右写真)が見えたり、また途中の紅葉も美しく(右下写真)、目を楽しませてくれた。(下写真)



この日は朝から曇り空で、眺望は望めないかと思っていたが、幸いにも雲がわくことはなく、穂高から槍までの稜線を一望することが出来た。

右写真：蝶ヶ岳ヒュッテと、遠景のキレット～槍の稜線。

下写真：前穂～奥穂～北穂～槍までの稜線を一望することが出来、ヒュッテも大きく賑わっていた。



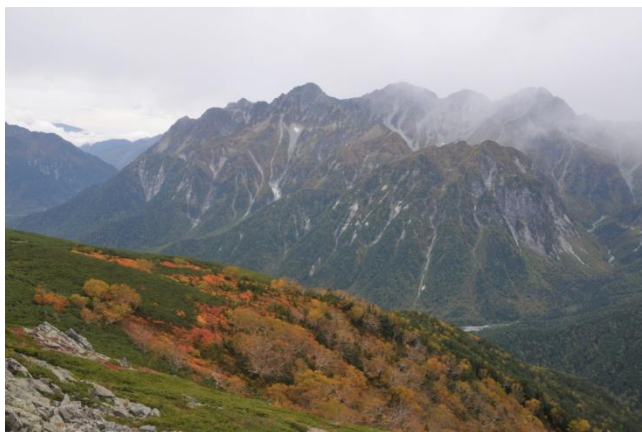
テントの受付を済ませて、設営後は軽食を採ってから、蝶ヶ岳までの稜線を散策することにした。

少々風が冷たかったが、稜線の木々も色づいており、穂高・槍の雄大な山容を眺めながらの稜線歩きは大変気持ちよいものであった。(下写真)



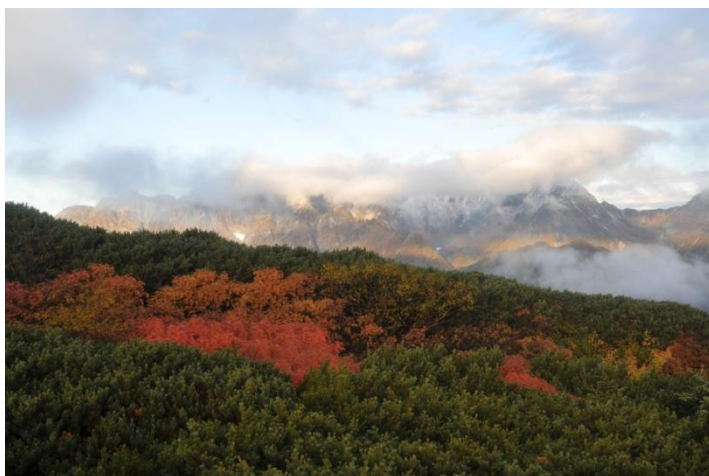
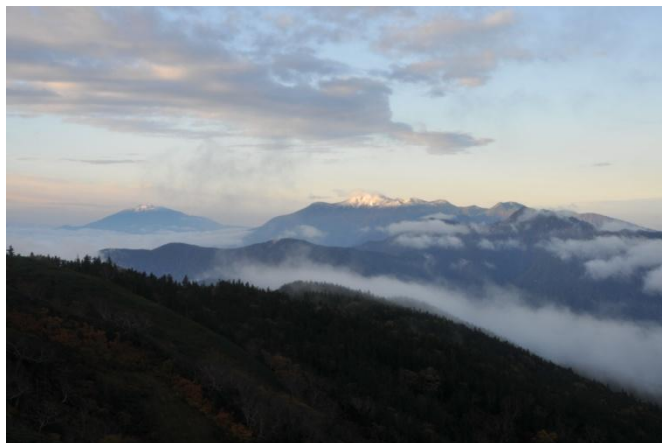
再びヒュッテに戻った後は、記念撮影(左写真)などを終えたあと、夕食の支度をする。

このころから次第に風が強くなってきて、寒さに震えながらの食事となった。そのこともあって、夜は20時前には就寝。しかしテントに吹き付ける風の音や外張りのしなる音が不穏な雰囲気、私は中々寝付けなかった・・・。



⑤2 日目

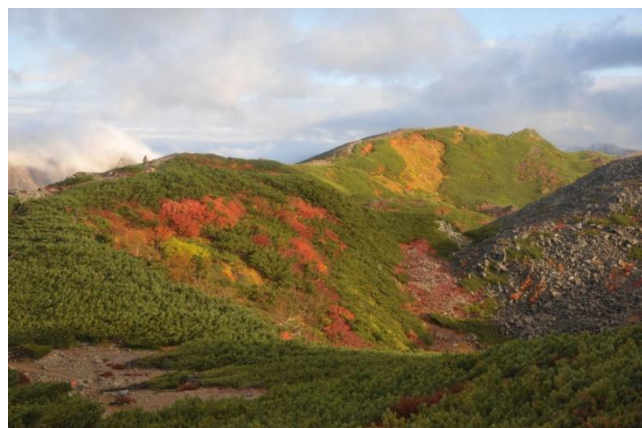
不穏な一夜を過ごしつつ、まだ暗い4時頃に起床。夏場と違って日は短く、また寒いのでこの時間帯の作業は辛いものがある。幸いにも風は止んでいて、朝食を食べてテントを撤収。寝ているときにパラパラと音がしていたのでひょっとして雪・・・？と心配していたが、幸いにも蝶ヶ岳では積雪はなかった。



早朝はガスが掛かっていたが、6時ごろに一旦晴れ間が差し、周囲の山々を遠望することが出来た。

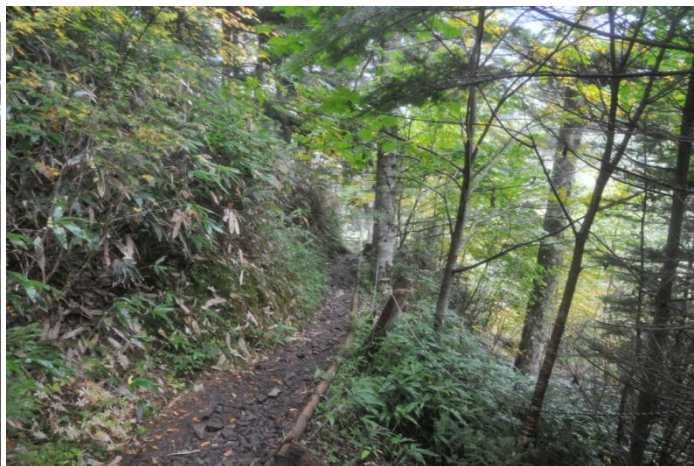
上写真：冠雪し、朝日に輝く御嶽山と乗鞍岳。

左写真：穂高、槍も冠雪したようだが、稜線には雲が掛かってしまい、はっきりと見ることは出来なかった。



蝶ヶ岳のピークを踏んだのち、昨日も歩いた稜線を歩く。朝日に照らされて、紅葉も一層綺麗であった。(右写真)

横尾への分岐点からは、樹林帯の中を下る。足元が悪かったので、ゆっくりと時間をかけて横尾に到着。ここで2日目出発班と無事に合流することが出来た。



ここで2日目で下山予定の後藤は上高地に向けて出発。残りのメンバーは、暫く休憩を挟んだ後に、再び涸沢に向けて歩き出す。秋の涸沢は混む、とは良く言われている通り、夏の診療所シーズンと比べても相当多くの人出。時として渋滞に引っ掛かりながらも(右写真)、紅葉を楽しみながら、標準コースタイムほどで涸沢に到着することが出来た。



到着後はテント設置場所を探す。設置場所は広いものの、ガレ場になっているため、寝るのに都合の良い場所を探すのには少々時間が掛かってしまった。

テント設営後はヒュッテの売店でしばし寛ぎ、その後は涸沢の夕景を楽しみながら夕食の支度をして、就寝。



⑥3日目

早朝 04:00 頃に起床。予想はしていたが、やはりこの時期の朝の涸沢は寒い。

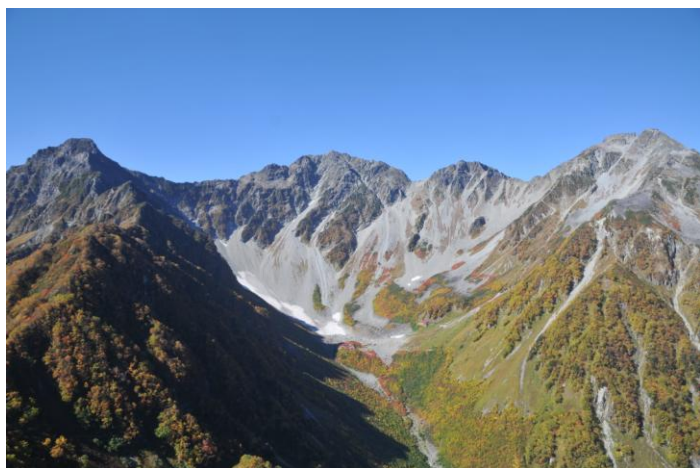
天気が良さそうであったので、朝食の支度の合間を縫って、モルケンロートを期待してヒュッテのテラスに向かうも、雲に阻まれ仕上がりは右の写真に留まった。

それでもヒュッテ前のナナカマドの紅葉は圧巻であった。



朝食後テントの撤収を行って、少々遅くなってしまったが 07:00 頃に出発。ここでこの日夕方より都内で用事があるという岡本さんはノーマルルートで下山。残りのメンバーで屏風のコルを目指す。

吊尾根の影がカールに差し込んでしまうが、涸沢槍付近には綺麗な光線が差し込み、紅葉と相まって美しく見えた。



途中何箇所かある岩場で渋滞を経験しつつも、屏風のコルに到着。この日は終日天候が良く、早朝とは打って変わって暑さすら感じるような天候であった。ここに荷物をデポして、屏風の耳まで往復する。30 分ほどの道のりを歩いて屏風の耳へ。私(荒川)は部員 4 年目にして実は初めての訪問であったのだが、槍ヶ岳から大キレット、北穂、涸沢岳、奥穂、前穂と秀峰を一目におけるこの場所が大変気に入った。



近くを訪れていた人にメンバー一同の写真を撮ってもらい、再び下山を開始。

屏風のコルで荷物を回収し、やや歩きづらいガレ場をややゆっくり目のペースで下る。

途中で奥又白池方面への分岐を眺め、一度は訪れたいとの思いを抱きながら歩く。新村橋が見えたときには心底ほっとする思いであった。

ここでしばしの休憩を挟んだ後、上高地まで 2 時間ほどの道のりを歩いて下山。

佐藤・濱崎はここから平湯温泉を目指し、残る 3 人は東京へと帰路を辿った。

途中で加わるメンバー、下山するメンバーを含めたやや変則的な山行であったが、今回初めての山行となった濱崎を含めて、全員が楽しめたのではないかと考えている。